

早産・低出生体重児の食物アレルギー発症に関する検討

出典	アレルギーの臨床 2020;40(4):321-326 (http://search.jamas.or.jp/link/ui/2020188639/)
著者	馬場 洋介 他
調査地域	順天堂大学医学部附属静岡病院新生児センター（静岡県伊豆の国市）
調査時期	2014年4月～2017年3月
調査対象	新生児センターを退院し、修正1歳6ヶ月時点で追跡可能であった児
依頼数	1216人
有効回答数 または回収率	30.4%（366人）
診断方法	医師診断
有症率	1歳6か月時点の食物アレルギー発症は8.7%
調査概要	新生児センターを退院し、修正1歳6ヶ月時点で追跡可能であった児の食物アレルギー発症と新生児期の状況（出生週数、出生体重、集中治療管理の有無など）との関連を検討している。